

シャロンの花だより

信仰のきずなによって聖霊が働き、キリストに在って一つとなる

◆ 希望・平和・多様性 ◆

希望の源である神が、信仰によって得られるあらゆる喜びと平和とであなたがたを満たし、
聖霊の力によって希望に満ちあふれさせてくださるよう

ローマの信徒への手紙15章13節

巻頭言

聖霊によらなければ

日本福音ルーテル教会九州教区荒尾教会・大牟田教会牧会委嘱

なかじま やすみ
中島 康文



「神の霊によって語る人は、誰も『イエスは呪われよ』とは言わず、また、聖霊によらなければ、誰も『イエスは主である』と言うことはできません。(1コリント12:3) かつてキリスト者を追い詰めていたパウロだからこそ、「イエスは主である」と自分が告白するに至ったのは、聖霊の助け無くしては為し得ないと確信をもって語ることができたのです。

イエスを三度も否認したペトロでしたが、復活の主に会い、聖霊に満たされた(使徒言行録2:4)ことによって、人々にイエス・キリストこそメシアであると説教(同2:14~36)しました。彼の説教を聞いて、どうすれば良いかという多くの人々に、「悔い改めなさい。めいめい、イエス・キリストの名によって洗礼を受け、罪を赦していただきなさい。そうすれば、賜物として聖霊を受けます。この約束は、あなたがたにも、あなたがたの子どもにも、遠くにいるすべての人にも、つまり、わたしたちの神である主が招いてくださる者なら誰にでも、与えられているものなのです」(同2:38~39)と告げたのでした。

この二人はエルサレム会議(B.C.48)では、「割礼や律法を遵守すべき」と主張するファリサイ派からキリストを信じるようになった者たちに対して、「異邦人にも聖霊を与えて信じるようになったこと、ただひたすらイエスをキリストと信じる信仰によって人は救われること」を説きました。宣教の進展に大きく寄与した二人の働きは、換言すれば聖霊の働きでもあったのです。

18才で受洗し、28才で按手を受け、42年間の牧師の務め(内25年間は東教区市川教会)を終え、今年3月定年を迎えました。これまでの歩みには、沢山の節目がありました。その節目には常に異なる選択肢もあり、私の思いとは異なる方を選んだこともありましたが、様々な理由で選択してきた私でしたが、しかし今、定年を迎えてこう思えるようになってきました、「私のような取るに足らないものにも、神は聖霊を送ってくださり、良き道に導いてくださったのだ」と。

今年4月から定年教師として九州教区にお世話になることになりました。数か月前までは予想もしていなかった歩みに多少の不安はありますが、「神が選び聖霊を送ってくださるのだから大丈夫」と、今はこれからの日々を心を躍らせてつ過ごしています。

皆様の日々の歩みに、九州よりエールを送ります、「神は聖霊を送ってくださるのだから大丈夫！」と。



中島康文氏 プロフィール

1954年生れ、1983年結婚、二女二男。久留米教会出身。
1983年受按。九州教区黒崎教会、北海道特別教区帯広教会、東教区市川教会を歴任。市川教会在任中は教区常議員、社会福祉法人千葉ベタニヤホーム役員・チャプレン、ルーテル社会福祉協会役員等。現在、九州教区荒尾・大牟田教会牧会委嘱。



奥能登被災地訪問

連盟担当役員 谷口和恵

4月14日～16日に東教区女性会役員有志で奥能登の町野町と門前町を訪問しました。発端は、全国常議員会で小泉基先生が町野町で新しく始まったログキャビンプロジェクトを報告されたことに始まります。それまで現地にはルーテル独自の支援先がなく、ACTフォーラムなどのキリスト教団体に支援金を送る形を取っていました。今回の町野町のプロジェクトは、小泉先生が熊本地震災害時に知り合った菅由美子さん（るうてる4月号参照）と繋がることで始まった独自の支援になります。町野町は奥能登の内陸部にある小さな町です。昨年1月の能登地震で多くの家が倒壊や半倒壊したところに9月の豪雨災害があり、土砂、流木、瓦礫が押し寄せ町全体が壊滅的な被害を受けました。

私たちが訪れた栗倉医院付近は当時2.5メートルほどの高さまで土砂流木等で埋め尽くされ、隣接する基屋スーパーも同様で、当初はとても店を再開することなど考えられなかったそうです。それから数か月、大勢のボランティアの力を借り、栗倉医院は平地にもどり、基屋スーパーも営業再開まで漕ぎつけました。奥能登には行政の支援の手が十分には入っていません。そこで支援を待っているだけでなく、自分達の手で「自力」を高め互いに助け合いながら、町の若い方々が中心となり、復旧・復興をしていこうと頑張っておられます。具体的には大小（6坪～15坪）さまざまなログハウスを自分たちで建て、住民が集まる場所にしたり、住居にしていこうという計画です。土台はプロに頼み、栗倉医院の大石賢斉医師が中心となり15人ほどのチームを組み、流木や山から切りだした木を使って、自分たちで建てていくそうです。大小のログキャビンには1棟30万～900万ほどの資金が必要になります。ルーテル教会が金銭面で支援をすることで町野町の希望に繋がっていくのではと思います。また浜名教会の信徒の山田将郎さんが数か月の長期でボランティアに入られ、汗を流して働いていらっしゃる姿も印象的でした。

二か所目は、輪島市門前町にある曹洞宗の禅の郷交流館で職員をされている宮下杏里さんを訪ねました。杏里さんは昨年9月に松本市で能登地震災害の報告をされた方です。その報告会の最中に、豪雨災害の様子が彼女のスマホにオンタイムで次々に入り、大変なことが起こっている様子に心を痛めました。今回お会いしてお話を聞くうちに、彼女が計画している「ランドリーカフェ」の支援ができないかと考えました。被災して自宅では洗濯が困難な方やボランティアさんに、気軽にコインランドリーを使ってもらいながら隣接のカフェで寛ぎ、交流の場にしてみよう構想です。私たちは今回、奥能登を訪問する中で沢山のひとと出会い、多くの災害の場所を目の当たりにしました。遠くで起きたことではなく、自分のこととして今回の災害の一端を捉えることが出来ました。それでも月日が経つとその時の気持ちが薄れてくるのも事実です。

こうして紙面をお借りして、「忘れない」「寄り添う」ということを、あらためて皆様にお伝えしたいと思います。私たち一人一人の力は小さなものかもしれませんが、共に祈り、力を合わせることで、奥能登の復興に繋がっていけることを心より願っています。



上：倒壊した家屋、下：倒木でふさがれた道路



基屋スーパー ボランティア宿泊所



左：基屋スーパー店長
右：（右から）大石医師、菅さん、山田さん



栗倉医院 大石医師（左端）と同行メンバー

町野町ログキャビンプロジェクトの送金先

郵便振替00190-7-71734
「宗教法人日本福音ルーテル教会」
（のと被災地支援と明記）



在り方検討委員会から

2025年4月12日、春の会長会&信徒の集いが、聖パウロ教会を会場に18教会から50名を超す参加者を迎え行われました。

午前の部の開会礼拝で、小勝奈保子牧師が創立70周年となる聖パウロ教会、及び創立101周年を迎えた社会福祉法人ベタニヤホームのこれまでをお話しになり、どんな時にも神様が共にいてお導き下さったこと、社会の中で助けを求める人たちに手を差し伸べる大切さをお伝えくださいました。

その後、教会の集会室に移動して4地区（城北総武地区・城南神奈川地区・中央線沿線地区・甲信地区）のグループに分かれ、「東教区女性会 在り方検討委員会」の報告を聞いていただきました。そのとき配布した二つの図は「ロードマップ案と検討事項」・「東教区女性会 現状と課題から今後へ」です。

●在り方の指針へ
向けて

－ 東教区 これからの女性会の在り方検討委員会 －
ロードマップ案

2024/09/12 → 11/09 → 2025/4/12

作成 和田めぐみ・八木久美
東教区女性会の在り方検討委員会

1. 【目的と目標】 ● ● ●

- ・女性会連盟の「在り方検討委員会」への提言を含め、東教区としての現状に即した組織の見直しを図る。
- ・女性会の役割や活動の見直しを通じ、教会活動の持続的な発展を目指す。

2. 【検討事項】 ● ● ●

- 1) 女性会の成り立ちと役割
→ 発足の背景や現在の役割の再確認
- 2) 現状の課題と対策 ※課題への対策・検討
 - ① 会員数減少・休会教会の増加へ対応
 - ② 役員選出方法/人数の見直し・規約改正の可能性 → 改正も視野に
 - ③ ⑤ 会費の見直し → 現状に合う活動/経費のスリム化
 - ④ 登録方法の検討 → 個人登録の利点と弊害の検討
・ 個教会単位の登録の意味
→ 休会教会会員に地区会参加を打診する・個人登録の利点・難点の検討
 - ⑥ ③ 新しい人の居場所（年代は無関係） → 本教会/東教区/方向性の組み合わせ
<留意事項>
・ 検討委の協議内容を各女性会へ共有し理解を図る
→ 集い/対面で共有+地区会でオープンに協議
・ 各教区の進捗状況を共有確認し、組み合わせも必要

○検討事項の内容・
順番を確認

○札幌教会・函館教会
※教区役員会案件が
規約改正の可能性も

3. 【検討期限】 ● ● ●

- ▶ 2025年10月～11月開催「11/22秋の集い」へ提案
- 規約改正の必要に応じ臨時総会を招集

4. 【タイムライン】 ● ● ●

2024年

9月 検討委で内容を精査 → 各教会女性会へ共有する

10月 検討事項1・2 協議1回目

11月 検討事項3・4 協議1回目

12月 検討事項5 協議1回目

ステップ1

→ 協議結果・第一段階の共有（ある程度纏めて）
11/9秋の集い、役員会報告などで各女性会へ

※項目は細分類
しない
※12月の予定：
11月委員会時、
開催を協議確定

2025年

1月 検討事項1・2 協議2回目

2月 検討事項3・4 協議2回目

3月 検討事項5 協議2回目

ステップ2

→ 協議結果を各女性会へ共有

4月 「春の会長会&集い」 全体共有（検討事項1～5）

→ 各地区会で意見交換 → 検討委+4/28小勝牧師と組み合わせ

5月 検討事項1・2 協議の継続

6月 検討事項3・4 協議の //

7月 検討事項5 協議の //

ステップ3

8月 夏季休み

9月 検討事項1～5:必要に応じ、提言または臨時総会の準備を

→ ①案内/出欠表（委任状）各教会女性会へ送付

②必要資料（経緯説明等）を作成

10月 提言または臨時総会

11月 → 「秋の集い」 於：市ヶ谷教会 予定

ステップ4

各検討事項
2回目の協議を
進行

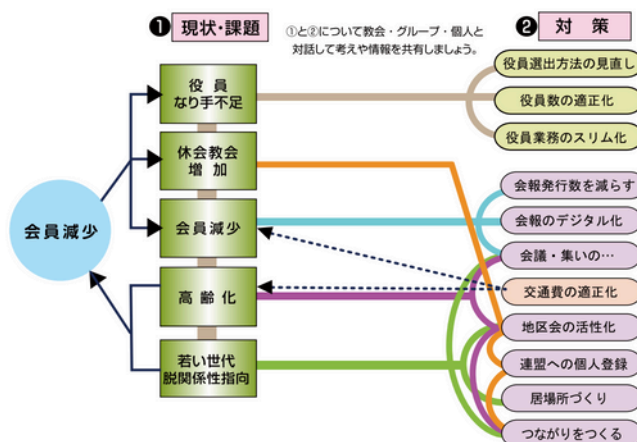
※各項目:
現状に則して3/24
検討委で協議

各検討事項
最終決定を目
指し、意見書
を各教会から
収集

11/22秋の集いで
提案
必要に応じ臨時
総会か

注) 4/28、小勝牧師との会合+検討を経て修正有り。補完及び変更部分は現状で24' 11/9淡紅色+25' 4/12水色下地記載（八木）

－「東教区女性会の現状・課題」から今後へ向けて－

2025.04.12
女性会の在り方
検討委員会

これは昨年8月から、在り方検討委員会で例会を重ね話し合われてきた、現状・課題に対する対策をまとめたものです。東教区の教会編成が変化していこうとしている中、教区女性会を今後どのように変えていくかを具体的にしていける必要があります（ステップ3）。教会の信徒の集まりである「東教区女性会」に必要なものは何でしょうか？それは、お互いに助け合いキリストによって一つであるという繋がりが大事なのではないかと思います。そのためには地区ごとの交わりを大切にしていこうと、今回の集いで、各地区の顔合わせをしました。それぞれの地区会の開催を目指して、昼食を交えながら、地区別グループトークの時間を持ちました。地区会を通して、これからの東教区及び教区女性会の在り方を、共に知恵を出し合い考えていきたいと願っています。

2025年4月12日 第26期東教区女性会「第3回 春の会長会&信徒の集い」

「母子生活支援施設ベタニヤホームの実践」 母子生活支援施設ベタニヤホーム施設長 伊丹 桂



母子生活支援施設とは児童福祉法に則った児童福祉施設です。母子家庭に限りますが親子で入所できる施設です。若い母親が入所するイメージがありますが30代後半の母親が最も多く、子どもは未就学児が5割、小学生が35%、中学生9%、高校生以上が5%となっています。DV被害で直接逃げてくるという親子は約4割で、いわゆるDVシェルターというわけではありません。社会情勢の変化に応じてこれまで以上の機能を求められています。離婚が進まない女性への支援、共同親権への対応、望まない妊娠への対応などです。また、虐待の相談件数が2023年には22万5千件を超え、虐待の

予防が求められていますが、元々母子生活支援施設は虐待予防機能を持つ施設でもありました。

こういうデータがある一方で、現場で感じていることとして、自己責任の過剰適応が起きているように思われます。「助けて」が言えなくなる社会では「助けて」という声が上がらないがゆえに、困っている人がいないとみなされるのです。しかし、現実はそのようなことはありません。承認された人は制度に救われますが、承認を得ない人はその存在さえ認められず、支援が届かないのです。

ベタニヤホームでは「支援を受けることはダメじゃない」、「ここにいていい」、「一緒にやろう」ということを軸に職員が利用者や地域の母子家庭に関わっています。既に始めていることもあります。母親と子どもそれぞれの支援から「親子（家庭）」への支援にシフトしています。また医療、心理との連携から最先端の親子ケアを行います。一方で都会にある施設として子どもたちにはできる限り自然に触れる機会を作りたいと考えています。と同時に失敗が認められる場を提供していきます。このことは子どもだけでなく母親にも行われていくべきものです。

さらに地域では、産前産後支援や里親支援も展開する予定です。それとこれは今後大きな社会課題になってくるという想定で、女性の第三の居場所を提供していきたいと考えています。母子家庭の子どもが成人すると、途端に支援がなくなるのがこの国の制度です。加えて今後、就職氷河期で正社員として就職ができず人材派遣会社で仕事を続けていたというような女性も含めて、今頑張っている女性たちが経済的な困窮に陥る時代になる前に、必要な人に手を差し伸べたいと考えています。

現在、食支援を通じて地域の母子家庭にアウトリーチしていますが、食支援は区内のネットワーク構築を通じて進めていますが、今後は施設独自で進めるべき事業を展開するために後援会の設立が必要です。制度に則った支援は持続するという点では重要ですが、課題として顕在化する前に、手を差し伸べられるのも社会福祉施設の役割だと考えています。ご理解とご支援をよろしくお願いします。



ベタニヤホームの職員のみなさん



お話を聞く参加者の方々



隣接する菊川保育園も見学させていただきました

ようこそ！ 聖パウロ教会&ベタニヤホームへ ～主に在って一つ～ 聖パウロ教会 畑野令子

この度は、会場となりました聖パウロ教会へたくさんの皆様に足をお運びいただき感謝いたします。

私たちの教会は小さく、活動できる者も多くはありませんが、代議員をはじめ男性陣の力も合わせお迎えできました。そして、ベタニヤホーム、菊川保育園の職員の皆様のご助力によりたくさんの学びが出来ました事に感謝いたします。

私たち聖パウロ教会は、すべてを易と変えてくださる主のみ手に導かれて歩み続けて参りました。私たち一人ひとりの力は小さなものですが、主にあって一つとなり、神様の御用の為に、ともし火をかかげて歩んで行きたいと思っております。主の恵みに感謝しつつ



ベタニヤホームを見学しての感想

稔台教会 松山 恵美

4月12日、錦糸町にある聖パウロ教会で春の東教区女性会の信徒の集いがありました。初めて訪問する教会です。こういう集まりの機会がないとなかなか他のルーテル教会を知ることはありません。神様の恵みは、小勝牧師の礼拝から始まりました。続けて和田めぐみ会長が本日の予定を元気にアナウンス。みんなで集まれたことの喜びが声と笑顔に溢れ出て、楽しいが伝わります。

さて、聖パウロ教会には、創立100年になる「母子生活支援施設ベタニヤホーム」があります。関東大震災の罹災母子を保護したことが始まりです。現在、この施設で暮らす母子の保護理由は虐待からの保護です。当初、私は女子教育の進歩や権利の拡充から、主体的に社会へのコミットがしやすくなり、よって保護施設の利用者は少ないのではないかと予想していましたが、実際はその逆でした。配布された資料によれば虐待からの保護を求める件数は、1990年1,101件、2023年は225,509件。実に205倍です。なぜ？

伊丹施設長の鋭い分析に思わず感嘆の声がでます。当時の為政者リーダー3人の時代において、「助けて」を封じ込めた『自己責任』という言葉が23万件もの声なき声の原因だとして指摘されました。私に求めなさいと神は言いました。助けを求めることを神様は尊厳の行為だと言って下さっているのだと気づかされた講演でした。

日吉教会 新城 智恵美

2025年4月12日（土）東教区女性会の集いに参加させていただき、ルーテル聖パウロ教会に隣接する社会福祉法人ベタニヤホームの施設見学もさせていただきました。私はこのような施設がキリスト教の精神に基づいて100年以上続けて運営されていることを初めて知ることができとても良い経験になりました。もともとは1923年（大正12年）の関東大震災のときに母子の緊急保護や救済活動を日本ルーテル教会会員と海外のキリスト教会がおこなったことがベタニヤホームの創設の基礎になったそうです。母子生活支援活動が主ですが、DV被害世帯が40%ほどであり、必ずしも女性のDVシェルターだけではなく様々な業務をおこなっているとのことでした。また食支援のフードパントリーもおこなっているそうです。

私たちは、実際に母子が住む部屋と着の身着のまままで逃げて来た人がすぐに生活ができるという2種類の部屋を見学させていただきました。被害者は直接ここに来るのではなく役所に相談してベタニヤホームを紹介されて入居される方がほとんどだそうです。しかし、困った状況にありながらもなかなか「助けてください」と声をあげる人が少ないのが現状だそうです。

このようなキリスト教の精神に基づいた施設が増えていき困った人が助けを求められる世の中になれば良いと感じました。繰り返しになりますが、とても良い経験ができましたことを感謝いたします。

ほしくずの会を深く知る―“ほしくずの会32年の歩み”―

1992年11月18日に発足した「ほしくずの会」の活動は、2024年で32年目。毎週火曜日、夜回り炊き出し（配食）をして山谷地区での路上生活を強いられている労働者の生活、人権を守るために支援活動をしているとのこと。写真は「ほしくずの会」代表安藤淑子さんと活動委員会会長浅野聖子さんとで昨年11月9日に開催した第2回信徒の集いでの“ほしくずの会の32年の歩み”の講演で「おにぎりの実演」をしてくださった一シーン。明るく楽しげな様子に会場から笑いもこぼれ、ボランティアの方々との交流も大切にしているという会の様子もうかがえました。



東教区女性会（当時婦人会）では、2009年から「ほしくずの会」を会の活動として位置づけボランティアの呼びかけを始め、以来、継続支援させていただいております。年末には各教会にクリスマスプレゼントの呼びかけをさせていただきました。引き続き、祈りに覚えてご協力をお願いいたします。ほしくずの会では通年焼き海苔（全形のもの）、乾燥カットわかめ、味噌、梅干しの件品も継続的に募集しており、炊き出しを配送するドライバーの募集もしているとのこと。



都南教会 白ゆりの会



都南教会の白ゆりの会の集まりは毎月第3日曜日礼拝の後に行なっています。

活動の内容はお互いの近況や、共に会に集えない会員の方々の近況を報告し合います。近況を知ることでお互いの意外な一面を知ったり、励まし合い祈り合うことで繋がって行くという交わりの時を持つことの大切さを共有しています。また、昨年から使用済み切手の収集を通してJOESの支援をする活動にも参加することが加わりました。

今年からは定例会での聖書研究も再開する予定です。繋がることで支え合い祈り合って行ける会でありたいと願っています。 (会長 安田やまと)



田園調布教会 ルディア会



ルディア会の歴史は古く、長く「婦人会」として教会の働きの土台を支えて参りました。付属の幼稚園父母会との関わりも深く、子どもに導かれるように信徒となり、さらにルディア会員となられた方も多くいらっしゃいます。会員の高齢化に伴い実質的な働きの方は減り、以前の活発な活動はできない現状ですが、「今できることを無理なく、そして楽しく続けていこう」これが私たちの思いです。教会と女性会のために働いてきた精神は今も変わらず、その精神から生まれた新しい企画も準備されています。共に手を取り他者のために働くという私たちの心は、時代の中で形を変えながらも受け継がれていく、そんなルディア会でありたいと願っております。 (会長 岸田多希子)



蒲田教会 女性会



蒲田教会ではコロナ過で中止していた愛餐会を2023年から再開しました。主に女性の会が準備していますが、女性の会以外の教会員の方にも協力いただき、月1回交わりの場が持てるようにしています。

毎月第4週には聖書研究と話し合いの時間を設けています。その他、年1回近隣のこども達に楽しんでもらうために教会で開催しているこども祭りへの参加や、クリスマス・イースターの祝会の開催、各所への献金のためにカードやジャムの販売も行っています。

女性の会の活動についてはたくさんの教会員の皆様に支えていただいています。今回の写真はそのような皆様と一緒に撮りました。今後も支えあいつつ活動できればと考えております。 (会長 松田和佳子)



藤が丘教会 女性会



コロナが落ち着き、社会が活気を取り戻しつつあった2023年5月、「虹のひろば」は産声をあげました。社会に開かれた教会を目指して、毎月第2月曜の午後、地域の皆さんにプログラムとお茶を楽しんでいただく企画です。会費は任意で100円。10名の委員で立案、交渉から当日の運営、報告を行い、3か月ごとにチラシなどを作成して広報しています。

コーラスのコンサートやクリスマスグッズ制作、音楽脳トレ、戦争体験談など多彩な内容で、教会員がプログラムを担うことも。毎回20～60名が参加され、讃美歌を含む歌をみんなで歌うことも魅力のひとつです。パストラルハーブと詩の朗読で静かに会を閉じます。神様のお導きの中で地域に愛される活動として続けていきたいと願っています。 (「虹の広場」担当役員 遠藤真理)



大岡山教会 ぶどうの会



私たちは昨年、性別や年齢に関係なく誰でも参加できるように、「女性会」から「ぶどうの会」に改名し、平日に行っていた例会も、第4日曜日の礼拝後に行うことにしました。

例会では、会報の聖書研究を用いて学びの時をもち、その後は連絡事項を伝えて会を閉じます。例会後、有志の方々がご用意して下さった昼食を頂きながら親睦の時をもっています。その他、毎週礼拝後のコーヒーサービス、8月には、平和を願ってお芋入りのおにぎりを配る等の活動をしています。また、老人ホーム、ほしくずの会の献品も今年から担当者を決めて集める事にしました。一人ひとりを大切しつつ、皆で協力し、新しい試みに挑戦中の「ぶどうの会」です。
(会長 松岡 恵)



日吉教会 エマオの会



日吉教会は今年創立63年目です。共に祈り、御言葉を聴き、讃美歌を歌い、一緒に掃除や食事をし、大笑いし、地上での別れに涙するも再会への励ましが教会にはある。毎日曜、神様に招かれて感謝を捧げる。イエスという方だけが接点。この方がいらっしやなければ出会うことも互いを思い祈り合うこともない。この方のお陰で自分の足りなさ、至らなさを知らされ、その足りなさを由とされ感謝し合う。この真実を教会員は軽やかに共有している。

女性会は2年前に男性も加わりエマオの会となった。聖研での感想の聴き合いは、会の名前の由来どおり熱く楽しい。今年のイースターには男性が手作りのケーキを持って来て下さった。来年はもっと増えるだろう。
(会長 新城智恵美)



大森教会 女性会



大森教会という小さな群れのなかの女性会ですが、働きはとても大きく感じられます。女性会は聖研の後に先月の活動報告、予定、協議事項の順で話し合いがもたれます。

CSのイースターの卵作り、デイキャンプのカレー作りは前日から準備に入ります。去年は80食作りしました。ご飯は3.3升炊きのガス釜2台で炊きます。工夫して活動しています。ほしのいえへの献品は通常は5月と11月は海苔を集めて送ります。東京老人ホームへのウエスは段ボールを用意し何時でも入れられるようにしてあります。その他色々な活動を行っています。

女性会は会員の心遣いと協調性、教会への思い入れ、それらを支えている信仰心が軸になっています。
(会長 根本明子)



湯河原教会 女性会



湯河原教会は神奈川県西端にありJR湯河原駅から徒歩10分、会員は湯河原町と熱海市内在住者です。去年は女性会活動の見直し、女性会は何をするのか、会則を定め会費を検討し任意加入制にしました。活動には参加できない会員も連盟を覚えて献金くださいます。第1日曜日の礼拝後に昼食を挟んでの定例会、年4回は水曜日の午前中に少しじっくりと定例会を開催します。昼食会は役員会主導で(ほぼ女性ですが)極力洗い物をしないで済むメニューを考えています。イースター愛餐会の持ち寄りメニューは大好評でした。食事は能登半島地震支援献金でした。愛餐会后、真鶴駅近くの教会墓地にて墓前礼拝をしました。世界祈祷日は横浜集会に初参加しました。
(会長 牧野正子)

2024年度決算・2025年度予算（案）

東教区女性会(26期)				単位:円	■支援献金 内訳(2024年)	■連盟送金 内訳(2024年)			
収入	費 目	2024年度		2025年度		支援先	金額	連盟会費	821,600
		予算	決算	予算(案)				会報購読	61,000
	東 教 区 会 費	480,000	379,200	379,200	1200×316	神学校・ルーテル学院	164,500	連盟支援	71,900
	教 区 便 り 購 読 費	20,000	14,800	15,000	100×148部	ほしくずの会	50,000	感謝献金	72,600
	教区活動支援献金	100,000	69,000	100,000	12教会	東京老人ホーム	30,000	サバ・神学生支援	116,000
	感 謝 献 金	50,000	57,780	50,000	13教会	バタニヤホーム	20,000	リーストコイン	33,873
	感謝献金(席上献金)	0	129,069	0	総会、女性会集い	千葉バタニヤホーム	20,000	TNG	48,500
	コ ー ヒ ー シ ョ ッ プ	60,000	0	0	コロナ以降中止	パレスチナ支援	20,000	ACWC	-
	雑 収 入	500	974	500	普通預金・定期預金利子	JELA	9,000	合 計	1,225,473
	小 計	710,500	650,823	544,700		アトウトウミヤンマー	9,000		
入	前 年 度 繰 越 金	1,892,582	1,892,582	1,685,923		合 計	322,500		
	収 入 合 計	2,603,082	2,543,405	2,230,623					
	教 区 便 り	100,000	213,125	100,000	※ 印刷 発送等				
	会 議 費	100,000	106,625	100,000	説教・オルガニスト・講師等				
	交 通 費	200,000	141,450	200,000	役員会・会長会				
	教 区 交 流 費	100,000	0	100,000	遠距離教会交通費・教会訪問				
	地 区 活 動 費	120,000	0	120,000	甲信地区 城南神奈川地区				
	次世代育成支援金	80,000	4,103	120,000	※ TNG活動支援・神学生への手帳				
	通 信 事 務 費	20,000	19,894	30,000	事務用品 郵便・通信				
	慶 弔 費	10,000	0	10,000					
支出	予 備 費	10,000	0	10,000					
	支 援 献 金	200,000	322,500	200,000	神学校・ルーテル学院・ほしくずの会・東京老人ホーム・東京老人ホーム・バタニヤホーム・千葉バタニヤホーム・パレスチナ支援・JELA・アトウトウミヤンマー				
	連盟総大会積立金	100,000	0	0					
	東教区総会積立金	50,000	0	0					
	コ ー ヒ ー シ ョ ッ プ	10,000	0	0	材料費 包装費等				
	雑 費	5,000	4,273	5,000	振込手数料 郵送通知料金等				
	検 討 委 員 会	0	45,512	100,000					
	仮 受 金	0	0	0					
	小 計	1,105,000	857,482	1,095,000					
	次 年 度 繰 越 金	1,113,158	1,685,923	1,135,623					
支 出 合 計	2,218,158	2,543,405	2,230,623						

現金・貯金残高			
通常郵便貯金	1,920,577	次年度繰越金	1,685,923
定額・定期	500,000	積立金残高	746,420
現金	11,766		
合 計	2,432,343	合 計	2,432,343
(2024年12月31日 現在)			
定期預金・定額預金(旧)19期 用いたまえ愛の主よ基金	500,000円		
連盟総・大会 教区総会積立金			
積立金会計	収 入	支 出	残 高
連盟総・大会積立金	450,000		450,000
24年度積立			
教区総会積立金	350,000	53,580	296,420
24年度積立			
			合計 746,420

26期東教区女性会

「秋の信徒の集い」のお知らせ

※ 教区便り 25期(100号/101号 102号/103号)含む
※ 次世代育成支援金 2025年度の次世代育成支援金予算は、2024年度分(2025年1月に振込済)が含まれる。
夏のこどもキャンプが東教区で行われることを鑑み、予算が増えている
※ 連盟総大会積立、教区総大会積立は資金が潤沢にあるので積立は致しません
※ コーヒーショップ 全国総会時のコーヒーショップの予定はありません

会計監査報告

- 1.監査日時 2025年2月8日(土) 13:00 ~ 14:30
- 2.場 所 ルーテル市ヶ谷センター東教区事務局会議室
東京都新宿区市谷砂土原町1丁目1番地
- 3.監査委員 滝沢 峰子(第25期東教区女性会選出/蒲田教会)
島田 洋子(第25期東教区女性会選出/東京教会)
- 4.立 会 人 和田めぐみ(会長) 小林エイ子(会計)
- 上記会計監査により2024年度決算のご承認をいただきました。
皆様のお祈りとお支えに感謝いたします。
2025年度予算については1月27日役員会にて承認されました。収入の部では会員集数の減少と前年度の繰越金の減額がありますが、支出の部では活動の必要性や現実的な状況を把握して予算を組みました。皆様のご理解とご協力をどうぞよろしくお願いします。

現金・貯金残高			
通常郵便貯金	1,920,577	次年度繰越金	1,685,923
定額・定期	500,000	積立金残高	746,420
現金	11,766		
合 計	2,432,343	合 計	2,432,343

(2024年12月31日 現在)

定期預金・定額預金(旧)19期 用いたまえ愛の主よ基金 500,000円

連盟総・大会 教区総会積立金

積立金会計	収 入	支 出	残 高
連盟総・大会積立金	450,000		450,000
24年度積立			
教区総会積立金	350,000	53,580	296,420
24年度積立			
合 計 746,420			

26期東教区女性会

「秋の信徒の集い」のお知らせ

日時: 2025年11月22日(土) 10:30~

会場: 日本福音ルーテル市ヶ谷教会
東京都新宿区市谷砂土原町1丁目1番地
☎03-3269-0609

内容: 「これからの女性会を共に考える」
講演会と東教区女性会在り方検討委員会からの提言を受けて意見交換。
その後は、音楽の時間(湯口依子さんによるオルガン演奏)を予定。

..... 編集後記

在り方検討委員会の発案を受け、5月11日むさしの教会にて行われた中央線沿線地区会のBBQに合流参加しました。予定の意見交換には至りませんでしたが沢山の「楽しかった」との声が寄せられ、最初のステップとなりました。(記: 石原)